配付資料５

新発見「小浜・発心寺（ほっしんじ）所蔵の駕籠（かご）」について

昨年 12 月に発心寺（小浜市伏原）から若狭歴史博物館へ寄託された駕籠（乗物）について、博物館による調査の結果、小浜藩主酒井家初代 酒井忠勝が初入国した際、三代将軍徳川家光から拝領したものであり、幕末期の公武合体・和宮降嫁の際にも、当時、京都所司代であった小浜藩主酒井家 12 代 酒井忠義（ただあき）が、京都御所への参内に使った駕籠であることが判明した。

ついては、「幕末明治福井 150 年博」関連の展示として、若狭歴史博物館において特別公開する。

１　駕籠の特徴

大型の男物の駕籠であり、徳川家康の駕籠を除けば現存する唯一の将軍用のものである。また、男駕籠の中では最上級の仕上げとなっている。

［規格］担棒の長さ： 497cm
駕 籠 本体： 身幅(底)86cm、身長 118cm、高さ 102cm、屋根長さ 137cm、屋根幅 90cm

［仕様］・全体を朱塗の総網代とし、溜め塗り仕上げ
・両側の引き戸上の屋根が打揚げ仕様
・担棒は、黒漆塗で太く、大きな円弧状を示す。
・窓は夢想窓となり、現存男物の上級駕籠では他に類例がない。
・夢想窓に貼られた紗には葵唐草の模様、担棒の両端金具には三つ葉葵紋がある。
・内側は黒漆塗でこげ茶のビロード貼り仕様

２　調査結果

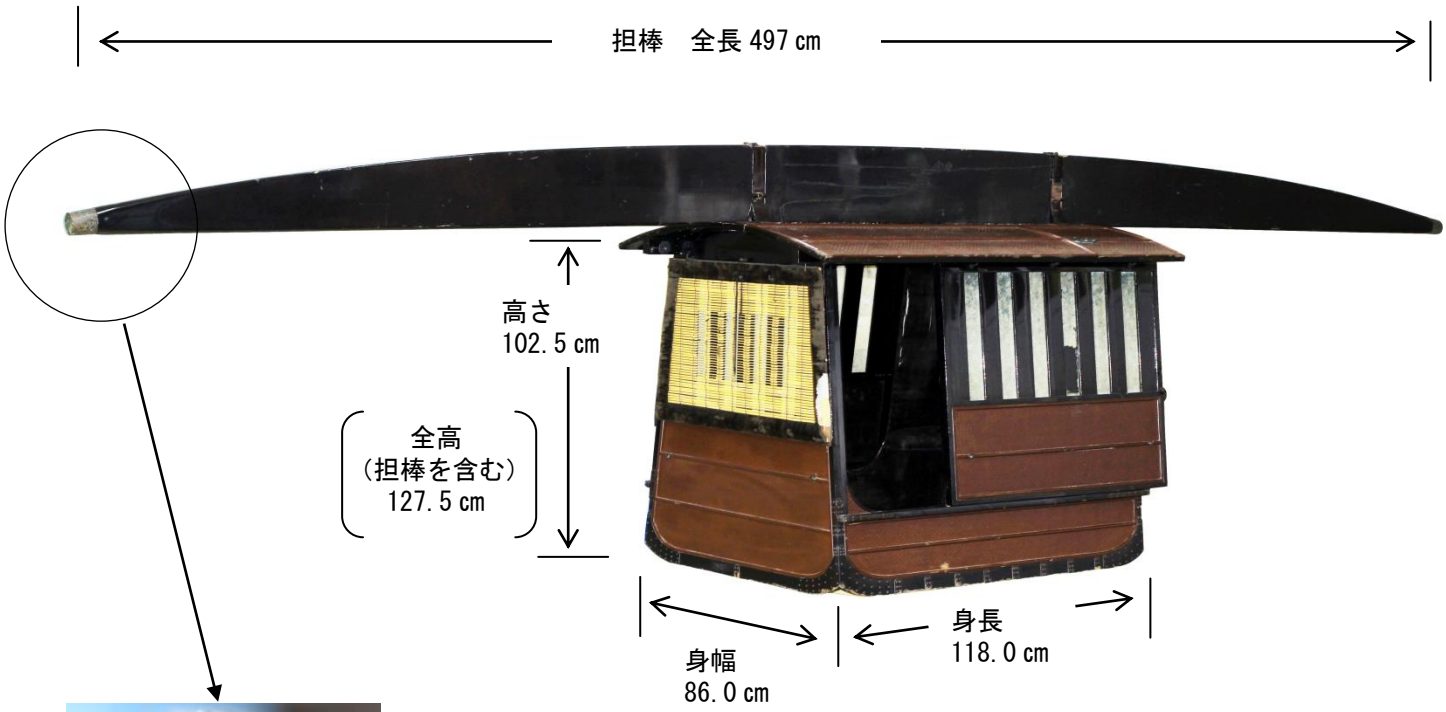
・寛永 11 年（1634）　酒井忠勝の若狭国初入国に際し、徳川家光の上意にて、将軍お召の駕籠、馬、鞍などを拝領して入国
・万延 元年（1860）　和宮降嫁に係る酒井忠義の宮中参内の際に京都で使用。御簾吊り金具や担棒の三つ葉葵紋金具が新たに加えられた。（降嫁後は小浜城において廃藩まで収蔵）
・明治 3 年（1870）　城から売却された駕籠が、河村彦兵衛(檀家）により発心寺へ寄附される。
・昭和 9 年（1934）　「小浜藩祖忠勝公就封 300 年記念祭」の資料展覧会に酒井忠勝の駕籠として出品

３　今後のスケジュール

・8 月 1 日（水）～9 月 9 日（日）　若狭歴史博物館において特別公開

担当　文化振興課

発心寺（小浜市伏原）所蔵　駕籠



駕籠の左前方から

幕末期に加えられた
三つ葉葵紋金具

引き戸を開けた状態